

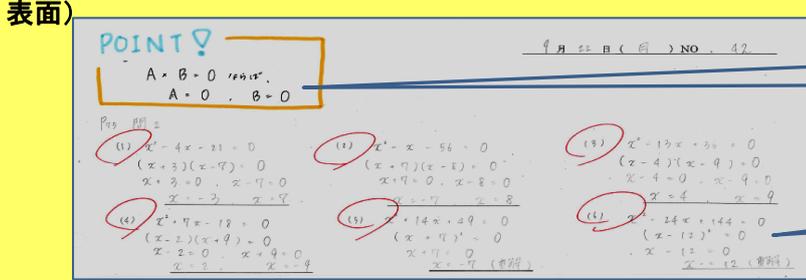
3 「わかった」「できるようになった」～ねらいに即した適用問題の設定

<テーマ> 「振り返りカード」を活用し、学習のめあてを達成できたことを実感させる取組
 (丸森町立丸森中学校)

1 取組の概要
 全ての学年で授業の初めに、授業のねらいに即した「学習のめあて」を提示し、授業の終結場面でめあてが達成できたかどうかを、適用問題とことばによる「振り返る活動」を毎時間行った。「振り返る活動」は、授業で習った知識や技能が確実に身に付いているかどうかの適用問題だけでなく、本時で「わかったこと（わからなかったこと）やできるようになったこと（できなかったこと）、疑問をもったこと」などを記入させ、次時のめあての設定につなげられるよう工夫した。適用問題については、できるだけ時間内で解答まで行い、生徒に「わかった」「できた」を実感できるようにし、ことばによる振り返りには毎時間コメントを記入し、次時への意欲喚起ができるようにした。振り返りカードはファイルに綴じ、学びの足跡として蓄積していくこととした。

2 実際の例

<実践例1：教科書の問いを適用問題に利用>
 3年生 2次方程式の解き方 因数分解による解き方
 めあて：因数分解を利用して2次方程式が解けるようになる。
 適用問題：東京書籍P75, 問2, 問4



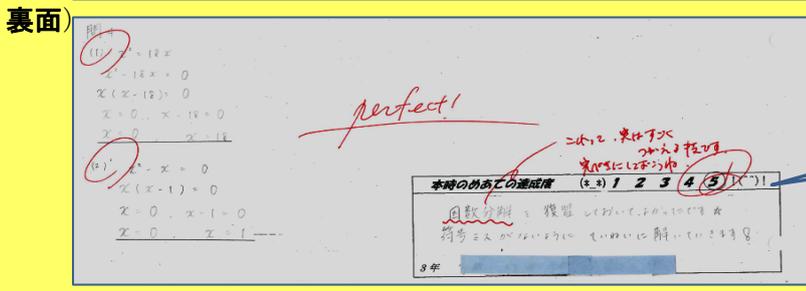
☆ 「振り返る活動」の流れ ☆

本時のポイントを自分なりにまとめる。

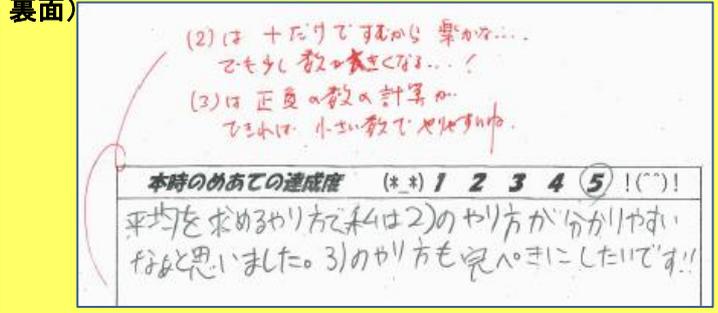
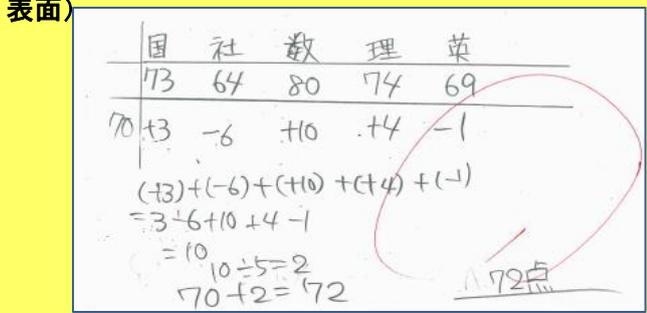
適用問題として教科書の問いを行う。

適用問題の丸付けを行い、本時のめあての達成度の自己評価と、ことばによる振り返りを行う。

* 学年の発達段階や学習内容によっては、上記のように自分のことばで、学習のポイントをまとめる活動も取り入れた。



<実践例2：基本問題を作成して適用問題>
 1年生 正負の数 正負の数の利用
 めあて：基準となる数を決めて、平均を求められるようになる。



正負の数を利用して平均値を求める場面では、生徒自身で基準とする数値を決めさせ、基準からの差を利用して平均を求められるかを振り返らせた。基準の決め方によって、計算が簡単になることを、実感するとともに、正負の数を利用した平均値の求め方の技能を身に付けられたと感じる生徒が多くいた。